

B - 4 子ども同士がつながる

「子ども同士がつながる」とは、どんな情報が必要か思考し、その中で伝えるべき大切や要素は何かを判断し、相手に伝わるように表現し、それを評価して聞き、反応を示すことである。また、互いの考えを聴き合い伝え合うことで、自分の考えや集団の考えを発展させることである。

<つないで活かす 一斉学習前のペア学習>



6年生国語科「短歌の情景を読み取ろう」の授業の様子である。表出の段階でノートに書いた自分の考えをペアで話し合っているところである。すぐに全体に広げるのではなく、ペアという小さいグループで考えを伝え合うことで、学習に対する意欲が高まった。また、互いの考えや思いを受け止め合っていることで、この後の一斉学習で安心して話し合いができ、内容も課題にむかって焦点化されていった。

<つないで活かす 一斉学習での話し合い>



5年生算数科「小数÷整数」の授業の様子である。発言している子は3.6を3と0.6に分けて考え説明した。それで発表を終えるのではなく、その考えが指示棒で示している友だちの考えと似ていることも説明した。

自分の考えを説明するだけでなく、他の考えと比較し、説明を加えることで、伝えるべき大切な要素を見つけることができた。

<つないで活かす 発信>



4年生国語科「伝言はまちがえずに」の授業の様子である。つないで活かす最後の段階で、それまで話し合ったことをもとに、文章を組み立てペアで発表し合っているところである。

CDで聞いて書いたメモをもとに、必要な内容を一斉学習で絞り込んだ。その後、もう一度文章の組み立てを行い、最後にペアで伝言し合った。

日や時間、必要なものの具体的な内容など、メモをもとに話す順番に気をつけ伝言した。ペアの聞き手は、「分かりやすかった」「もう少しゆっくり話さない聞き取れない」など評価したり、具体的なアドバイスをしたりしていた。集団で学習したことが、もう一段深まる活動となった。